

夢サラダ Vol.66

2022.4.1 発行

市民活動の拠点を目指しています。
「今治市民活動センター」
指定管理者：(特非) 今治NPO サポートセンター
【お問合せ】TEL/FAX 0898-25-8234
E-mail imanpo@nifty.com

コロナ禍 のまちづくり



コミュニケーションの工夫

集まらない…、会って話せない…。そんな中、“オンライン”ツールを取り入れる団体が増えました。内部のミーティングはもちろん、対外的な会議、研修会やサロン活動など、様々な場面に取り入れられています。

オンラインに抵抗感がある方も…。無料プランで利用できる Zoom は簡単に参加できます！トライを！



PC・スマホ・タブレットで利用可
PCの場合、WEBカメラ・マイクが必要
(カメラ・マイクの内蔵があるか確認を！)



使ってみよう！オンラインツール

「普段は参加が難しい方も参加してくれた」「海外とつないで交流できた」イベントや交流会をオンラインで開催して、活動がよいものになったという現場の声を聞きました。オンラインならではの良さは活かしていきたいものです。別の場所にいっても、同じ時間を共有できるのがオンラインのメリット。その場の空気感が伝わらなかったり、会話が一方通行になりがちだったりするデメリットも、少人数に分かれてのグループワーク、チャットでの対話といった工夫によりよい運営ができています。



*ゲストとして参加する場合、Zoom アカウントは不要。

*Zoom ソフトを事前にインストールすることがおススメ。

PC の場合、インストールしなくてもブラウザで使うことは可能
参加する時:「ブラウザから参加してください」をクリック
ただし、ブラウザの場合、一部の機能が利用できません。

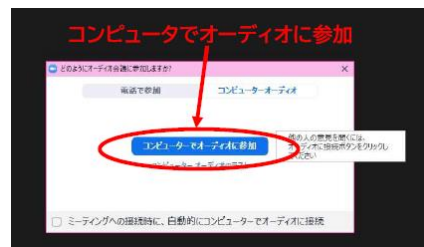
1.招待メールの URL をクリック
これだけで OK 又は

Zoom アプリを起動
「参加」からミーティング ID と PW を入力

2.名前を設定し「参加」をクリック
自分の名前は自由に設定できます。
わかりやすい名前がオススメ。

3.「コンピューターオーディオに参加する」
をクリック

4.終了後は「ミーティングを退出」をクリック



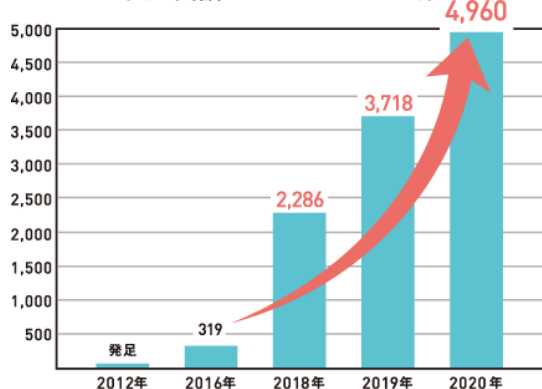
影響は多方面
お互い様の活動が必要

多様な業種に及ぶ不況。経済の停滞は、障がい者の就労支援現場、シングルマザーの雇用など、社会的に弱い立場の人に大きな打撃となりました。長引くコロナ禍で、閉塞感から家庭内暴力や虐待が増えたり、学校や公民館等の居場所の閉鎖で孤立する人が増えたりしています。

今こそ、お互いがいたわり合う気持ちが大切…。そんな思いからでしょうか。子どもに無料や低額で食事を提供する「子ども食堂」が急速に開所。全国で6千カ所以上にのぼったことが支援団体の調査で分かりました。20年の4,960カ所から1,000カ所以上ふえ、これは「子ども食堂」が発足以来、過去最多。今治市でも新たな拠点がオープンです。⇒詳細は中面へ

多様な業種に及ぶ不況。経済の停滞は、障がい者の就労支援現場、シングルマザーの雇用など、社会的に弱い立場の人に大きな打撃となりました。長引くコロナ禍で、閉塞感から家庭内暴力や虐待が増えたり、学校や公民館等の居場所の閉鎖で孤立する人が増えたりしています。

子ども食堂支援センター・むすびえ 調べ



出所: 全国に広がってきた子ども食堂をサポートし、すべての子どもを笑顔にするため設立されたNPO法人「むすびえ」HPより。



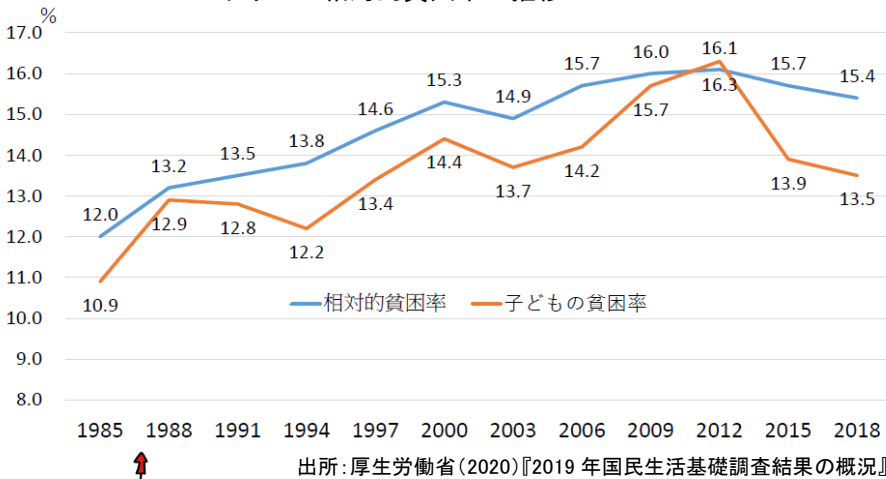
食でつながる 地域・子ども食堂

無料や低額で子どもたちに食事を提供する「子ども食堂」。今治市では複数の地域で、自主的・自発的に運営がはじまっています。主体は地域住民のグループだったり、個店(食堂等)だったり様々で、頻度も不定期も含め、月1回～毎日まで多様。共通しているのは「人が集まる場所」ができ、新たなコミュニティの場として機能しはじめていることです。



厚生労働省が3年ごとに発表する国民生活基礎調査によると、2018年子どもの相対的貧困率は13.5%となりました。何と、子どもたちの7人に1人が貧困に苦しんでいる実態なのです。これは国際的にも高い水準。そのような状況にも関わらず、近隣住民との繋がりが疎遠になり、貧困状態を実感することが少なくなっています。「隠れた貧困層」を救うために始まった活動が「こども食堂」です。

グラフ1: 相対的貧困率の推移: 1985-2018



国民全員の所得の中央値の半分を下回っている状態

普通

相対的貧困

ある国・地域の中で、平均的な生活レベルよりも著しく低い生活レベルの貧困

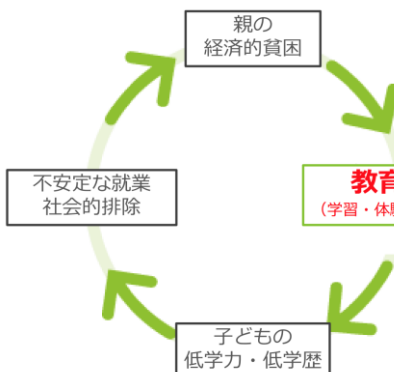
絶対的貧困

食べ物がない、家がないなど人間としての最低限の生存条件を欠くような貧困

日本における「子どもの貧困」とは「相対的貧困」にある18歳未満の子どもを指します。「相対的貧困」とは、世帯の所得が全世帯の所得の中間値の半分に満たない状態のことを意味します。毎日の衣食住に事欠く「絶対的貧困」とは異なりますが、その生活状態は厳しいと言わざるを得ません。経済的困窮を背景に、教育や体験の機会に乏しく、地域や社会から孤立しがちです。

結果として学力不足、精神的に未成熟なまま大人になるケースが目立ち、低所得あるいは所得がない生活を送る…、そう“貧困の連鎖”を産んでしまうのです。

この連鎖、続けば続くほど子どもの貧困は深刻化の一途をたどります。



はじまりは八百屋の店主の善意

貧困や親の多忙からご飯を満足に食べていない子どもがいる…。ひとり親世帯の増加で、食料に困る家庭、常に孤食の状態にある子どもは増加している…。そんな現状を知った東京の八百屋の店主が、自らが経営している八百屋の一角に子どもたちが食事をできるスペースを設置したことがきっかけです。



子どもに無料や低額で食事を提供することを目的としてはじまった「こども食堂」は、全国的に急速に拡がりました。子どもが一人でも行け、そこは大人も気軽に行きやすい場となり、一人暮らしの高齢者や学生など、多様な人が集う場となっているところが増えています。子どもの貧困対策という役割に、地域交流拠点という役割が機能しているのです。

地域の理解・支援が運営継続の鍵

コロナ禍で必要性が増す「こども食堂」。今治市内の拠点は、感染対策をとり、内容見直しをしながら活動を続けています。

寄付とボランティアで運営される現場には物心両面での支援が必要です。



▲今治市内のスーパー回収ボックス。子ども食堂に届くしくみ。

● 私たちにできること ●

1. 運営者に直接寄付
お金も少額から、物品(本、学習用具等)を求めているところも。受取を事前に問合せみて!
2. フードドライブに食料を寄付
余剰食品を必要な人に届けるしくみ。スーパーに回収ボックスがあり、身近に感じるきっかけにも。
3. ボランティアスタッフとして参加
どんな支援が必要なのかを擦り合わせる事が大切! まずは見学してみても!

お腹も心もほっかほか みんなの居場所

子どもたちにあたかな食事を提供する「こども食堂」。無料や低額の食事、そしてそこにあるのは温かな団らんです。子どもを真ん中に、子育て中の親も利用したり、高齢者はボランティアとして役割を持って参加したりと、地域に開かれた場として認知されはじめています。



「日本財団」が全国に広げる居場所づくり事業として ちんじゅのもり「こどもキッチン」

旧保育所跡をリノベーションした、地域のコミュニティ拠点「鎮守の杜」。この居場所に、子ども達の支援の機能を加える形でオープンした。活動の基盤・島の魅力をいかした創作ワークショップ等は「多世代・異国籍・障がいや病気」の垣根を超えたつながりを育んできた。活動を通して聞こえてくる子どもの困難を地域ぐるみで支える必然性が原動力となっている。



代表理事
：田窪良子さん

いろんな人が
いて当たり前
の居場所に！



▲農園での収穫、調理から関わる。療育の視点から、多彩な経験を重ねる場に。

▲食事の前後で、学習支援を展開。

▲土曜の午後(14-17時)は工作や遠足を企画。

場所：伯方町北浦甲 2255/鎮守の杜
開所：月・金曜日 15:00-19:00
* 祝日年末年始を除く
料金：大人 300円・こども無料
申込：前日までにメールにて申込み
問合せ：e-mail grian2255@gmail.com
(担当 田窪)



「児童家庭支援センター」の設立に向け 子ども食堂 Bule Pocket

青い空の下、
ドラえもののポケット
のように…

子どもが一人で行ける、保護者も地域の人でも気軽に立ち寄れる…、場所選びを重要視し、中心部の通学路沿いに開所。児童福祉施設との関わり、15歳以上の自立サポートが希薄なことに問題意識があり、義務教育終了後の青少年の受入に積極的だ。行政機関との連携を密にし、成長段階に応じた、途切れのない支援体制構築を目指している。



理事長：木村福生さん



▲拠点を置く桜井に農園があり、新鮮食材を使った地産のまごころ弁当。

▲敷地内に「学習ブース」も併設。中高生は一人学習もOK。「相談ブース」もある。

* 協働団体は「NPO法人未来バリー」。子ども食堂運営に当事者(青年等)の主体的参加を促し、自立の受け皿づくりを目指す。

場所：北日吉町 3-5-50
開所：月～金曜日 11:00-15:00 頃
料金：弁当 350円 他
申込：不要
問合せ：090-9457-2016



変わる地域！子どもを核に地域のつながりを再生 鳥生地域食堂れんこん

顔の見える関係づくりを通して、子どもから高齢者まで、全ての人の孤立(孤食)をなくすことを目指し、活動をスタート。年6回のイベント実施は地縁組織の担い手の参画につながり、地域の共感を育んだ。学校、医療機関、地域の専門職等、多様な人との連携体制「鳥生子ども家庭サポートネットワーク」を構築し、活動の場、頻度を充実させている。



「子どもの成長を
皆で喜ぶ地域で
あって欲しい」

支え手は地域！
ボランティア代表：
橋本幸子さん



▲イベントからはじめ、公民館で定期的な活動へボトムアップ。

▲月2回の学習支援は鳥生公民館(土橋町 1-8-42)にて。学生ボランティアの参加もある。

場所：食堂/鳥生レジデンス 1-101
(北鳥生町 1-4-32)
開所：火～日曜日 11:30-18:00
* 定休日：月と第1、3日曜日
料金：惣菜 100円～、弁当 350円～
申込：不要 * 電話予約は 9:00 から
問合せ：0898-34-7747

2021 年度 市民が共におこすまちづくり事業 報告会

先般、2021年度補助事業の報告会がありました。新型コロナウイルス感染症の影響で、感染防止対策を徹底してのイベント、オンライン講座等、工夫をしながらの事業展開となりました。コロナ禍で叫ばれることに社会の分断、そして格差があります。そんな中、地域の中でのつながりを見直し、当事者目線で展開した手厚い支援は、暮らしやすいまちづくりを目指す事例でした。



▲審査員からは、補助事業として費用対効果への踏み込んだ質問がありました。事業継続へのエールとなりました。

僕たち私たちの考えること「小さな声を聴いてみよう」

コロナ禍でつながりが分断され、障がいを持つ人の活動への理解も希薄になっている…そんな不安を抱えての取り組み。「すくらむハート」の人たちと、市内の子ども達が絵画で交流する『ハピースマイルみんなでわっしょい』を開催。

気づきをまとめた冊子▶



コロナ禍で延期もあったが、無事事業ができ、一歩前進。自分らしく、一人一人が輝いていて、感動。



「一生懸命やる姿を信じて」講師の画家 MAYA MAXXさんが活動後に寄せた言葉。MAYAさんの助言で完成した愛くるしいパンダの懸垂幕は▼公会堂に吊るされた。



▲大きなキャンパスに筆…いや、手も足も、身体全体を使って描く。関わる人の数だけのタッチは味わい深い。利用者の声：「絵を描くのは何年ぶり…ワクワクした。次の「何かやりたい」に



知的・身体・精神等に障がいがある人達の社会参加を支援するNPO。就労支援事業所「Konekko」、生活介護事業所「ぼんたはうす」、相談支援センター「ここから」を運営。
NPO法人すくらむハート
理事長 渡部 雄一郎さん

第二回ワーママ夢サミット

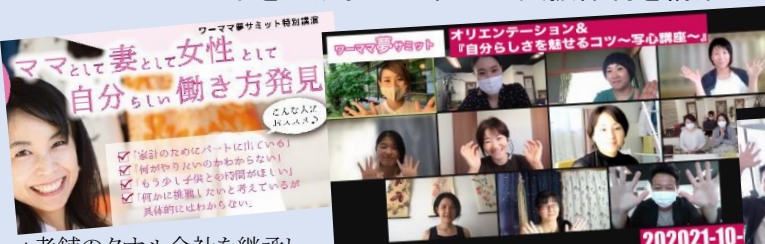
母親等を対象にした学びや交流のイベント等を通して女性の社会進出を応援する2年目の事業。連続講座には20代から50代の女性14名が参加。生活の質を高める新しい働き方を学んだ。昨年度より一歩踏み込み、受講生や講師をつなぐSNSでのコミュニティを形成。きめ細かい支援体制を構築した。



「パート等とは違う働き方は、女性のQOLを高める。選択肢を増やす支援をしたい。」

若年女性の転出率が多いことから「消滅可能都市」といわれるまち。子育て世代が働き続ける環境整備に向け、当事者の声に寄り添う活動を展開中。

バリママ倶楽部
代表 竹中由梨さん



▲老舗のタオル会社を継承した女性の基調講演を皮切りにスタート。起業した“ちょっと上の”先輩の意見は刺激に。

▲完全オンラインで参加者は増加。多様な働き方を支援するサイボウズ・青野慶久氏の講話はエールに。



▲リピーターもおり、コミュニティ構築を推進。

◀引き続き、起業等の支援を継続。新メンバーも迎える次年度事業では単発講座で、理想像の女性の話を聞くなど、運営の工夫が目標。

市民が共におこす まちづくり事業

応募
締切 5/6

2022 年度事業を募集中！

メニュー

今治市を個性的で魅力のあるまちにするための公益的ある事業

- ① 市民活動推進事業(継続性のある事業)
補助額: 上限 50 万円 (補助対象経費の 70% 以内)
- ② テーマ型協働推進事業(市の提示テーマに沿った協働して取り組む事業)
補助額: 上限 100 万円 (補助対象経費の 70% 以内)

対象

まちづくり事業に中長期的に取り組む団体

- ・今治市内に事務所を有し、主たる活動場所在今治市内である団体
- ・10名以上(過半数が今治市内に在住)の構成員からなる団体 等